

I. 輸出向け生果実の生産を対象とした防除技術

1. ブルーベリーのオウトウショウジョウバエ

1 基本生態

- ★分布:北海道～九州
- ★体長:約3mm
- ★生態:年 10 化以上。
 - ・ブルーベリーでは早生品種の着色期から晩生品種の収穫期まで加害。
 - ・産卵から羽化まで、15℃で 20 日、25℃では 10 日程度と短い。
 - ・キイロショウジョウバエと異なり、外見が健全な成熟間際～成熟果に産卵する。
 - ・同様の加害様式を示すニセオウトウショウジョウバエがいるが、割合は少ない。
 - ・果実の熟期に合わせて寄主を替える。
- ★寄主植物:オウトウ、キイチゴ、グミ、クワ、ブルーベリー、モモ、ブドウ、サクラ、その他各種バラ科果樹、カキ等



図1. オウトウショウジョウバエ雄成虫（上）と被害果（下）

2 重点防除時期

- ★着色開始期から収穫期まで。



未熟果(緑色)

着色始めの果実(赤色)

適熟果実(青色)

図2. ブルーベリー果実の着色度合い

3 効果のある防除薬剤と施用方法

薬剤名	希釈倍数	年間使用回数	農薬登録上の使用時期
スピネトラム水和剤	5,000 倍	2回以内	収穫前日まで
トラロメリン水和剤	3,000 倍	2回以内	収穫前日まで
ペルメリン水和剤	2,000 倍	2回以内	収穫前日まで
アセタミプリド水溶剤	4,000 倍	1回	収穫前日まで

上記薬剤を重点防除時期に散布する。

4 防除の特徴～防虫網と防除薬剤を利用した総合防除

★輸出向けブルーベリー果実を生産する園地ではオウトウショウジョウバエの被害をできるだけ少なくするため、網目 0.8mm の防虫網で被覆する。防虫網は果実の着色始め前に被覆する(図3)。



図3. 防虫網で覆われたブルーベリー

5 防除体系

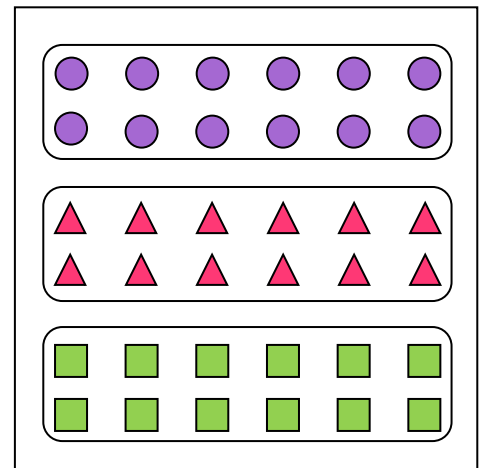
★早生種・中生種・晩生種と収穫時期別に分けて栽植し、収穫時期に合わせて散布を行う(表1、図4)。

★果実の着色前までに防虫網を設置し、防虫網内にいる可能性のあるオウトウショウジョウバエを排除するためスピネトラム水和剤 5,000 倍を散布する(表1)。

表1. 散布スケジュール例

散布時期	早生種	中生種	晩生種
6月上中旬 (防虫網被覆後)	スピネトラム	スピネトラム	スピネトラム
7月1週目	ペルメトリン	—	—
7月2週目	スピネトラム	スピネトラム	—
7月3週目	トラロメトリン	トラロメトリン	トラロメトリン
7月4週目	アセタミプリド	アセタミプリド	アセタミプリド
8月1週目	トラロメトリン	トラロメトリン	トラロメトリン
8月2週目	ペルメトリン	ペルメトリン	ペルメトリン
8月3週目	—	ペルメトリン	スピネトラム
8月4週目	—	—	ペルメトリン

※スピネトラム：スピネトラム水和剤 5,000 倍
 ペルメトリン：ペルメトリン水和剤 2,000 倍
 トラロメトリン：トラロメトリン水和剤 3,000 倍
 アセタミプリド：アセタミプリド水溶剤 4,000 倍



●：早生種、▲：中生種、■：晩生種

図4. 栽植イメージ

〈(地独)青森県産業技術センターりんご研究所〉